

平成 30 年度事業報告書

社会福祉法人 十百千会

障がい者総合支援センターゆきぞの



障がい者総合支援センターゆきぞの 法人事務 事業報告

1. 法人事務

*理事会の開催状況（定数：理事6名、監事2名）

第1回（平成30年05月30日） 理事6名 監事1名出席

第2回（平成30年11月12日） 理事6名 監事1名出席

第3回（平成31年01月24日） 理事6名 監事1名出席

第4回（平成31年03月27日） 理事5名 監事1名出席

*評議員会の開催状況（定数：7名）

第1回（平成30年06月13日） 評議員7名出席

理事長 松本理事 監事1名出席

第2回（平成30年11月26日） 評議員7名出席

理事長 松本理事 監事1名出席

第3回（平成31年02月04日） 評議員7名出席

理事長 松本理事 監事2名出席

*評議員選任・解任委員会の開催状況（定数：3名）

開催なし

*登記事項

平成30年06月20日 資産総額の変更（平成30年3月31日現在）

平成31年03月27日 目的事項の変更（平成31年3月25日変更）

*各種規程

定款改定、定款細則制定、役員等の報酬及び費用弁償に関する規程改定

評議員選任・解任委員会運営細則改定

*中期経営計画書作成

*事業

宇城圏域基幹相談支援センターの受託手続

ショートステイゆきぞの（短期入所事業）の事業申請

2. ガバナンスの方策

*各種規程の制定・・・指定特定相談支援事業所きょうせい運営規程

ショートステイゆきぞの運営規程

*各種規程の改定・・・共同生活援助運営規程、指定一般相談支援運営規程

指定特定・障害児相談支援運営規程

就業規則、契約職員就業規則、経理規定

3. 職員互助会

*やまびこ会の出納管理（会費、慶弔費等の管理）

*ふれあう共済の手続き、行事参加の調整

4. 広報誌及びホームページ

* 広報誌・・・平成30年10月発刊

* ホームページ・・・関係書類等の公表（平成29年7月）、その他随時更新

5. 請求業務

項目	事業	状況
給付費 利用者負担金	生活介護、就労継続支援B型、共同生活援助 相談支援（指定特定）	毎月実施
委託費	委託相談支援、認定調査、移動支援	半期、実施月

6. 研修関係

* OFF-JT（施設外研修）の参加調整

* 施設内研修の開催状況

平成30年5月17日	平成30年8月10日	平成30年12月28日
・インフルエンザ、ノロウイルス感染症について	・介護保険の概要	・発達障がいの理解と支援 ・年次有給休暇の時期指定義務について

8. 管財関係

* 建物、設備備品等の保守・管理及び営繕

* 施設内外の防火・防犯設備の管理及び点検

* 車両の管理（運転日報管理・減免申請他）

9. ゆきその家族会

* 家族会・・・年3回実施

* 研修会の調整、企画 * 保護者、職員との交流会 * 家族会会計

10. 実習、ボランティア受け入れ

支援学校（松橋西支援学校）

学生体験（ワークキャンプ、職場体験）

各種学校（なし ）

リスクマネジメント事業報告

利用者サービスに関わる事故を予防し、利用者の健康と安全を確保すると共に、生活の質を高めることを目標に取り組みを行なった。また、施設において起こり得る事故・怪我・病気を最小限にとどめ、安全で快適な生活が実現できるよう最大限の注意を払って支援することに留意した。

【活動内容】

※ リスクマネジメント会議の実施

7月・・・*平成30年度4月～6月までのヒヤリハット・事故報告と経過報告。また、今後の対策及び反省点を検討。

11月・・・*平成30年度7月～10月までのヒヤリハット・事故報告と経過報告。また、記入及び報告についての確認と今後の対策及び反省点を検討。
*インフルエンザ、ノロウイルス予防のための健康チェックや消毒等の実施時期及び方法について。

3月・・・*平成30年度11月～3月までのヒヤリハット・事故報告と経過報告。また、今後の対策及び反省点を検討。

* ヒヤリハット及び事故報告について、会議後、全職員に回覧し、周知徹底を図った。また、反省や改善点を促し、再発防止と利用者サービスの質の向上に努めた。

* 今年度は全国的にインフルエンザが流行したが、当法人においての罹患者は職員・利用者を含め1名であった。各自、手洗いやうがい等を徹底した結果と思われる。

* 危険箇所の定期的な確認及び点検

各事業所において定期的な確認を行ない、危険箇所の発見及び改善策としてリスクアセスメントの検討を行ない、実施する。

※ 平成30年度のヒヤリハット及び事故報告の集計結果

<発生件数>

ヒヤリハット・・・52件 事故・・・5件

<属性別件数>

暴力行為・・・13件	転倒・・・25件	怪我・・・7件
薬品・・・2件	無断外出・・・3件	器物破損・・・1件
熱中症・・・2件	他害行為・・・1件	打撲・・・1件
発作・・・2件		

<曜日別>

月曜日・・・11件	火曜日・・・16件	水曜日・・・11件
木曜日・・・6件	金曜日・・・5件	土曜日・・・6件
日曜日・・・2件		

身体拘束廃止委員会事業報告

【委員会の体制】

各事業所及びホームを利用される方の尊厳と主体性を尊重し、職員一人ひとりが身体拘束廃止に向けた意識をもち、身体拘束をしないケアの実施に努めるように身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束廃止に向けた措置及び啓発を積極的に行なった。

【活動内容】

※ 会議の実施

7月…行動制限・身体拘束の同意者状況についての報告と身体拘束廃止未実施減算についての説明・周知。

11月…身体拘束実施の報告・検討。

3月…身体拘束廃止に向けての現場が取り組む3つの法則(スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロック)についての説明・周知。

※ 法人職員への身体拘束廃止に関する指針の周知

- ・身体拘束等の適正化を図るため、身体拘束等に係る記録と今後の対策の検討。
- ・会議後、事業所ごとに回覧し周知徹底を図った。また、再発防止と予防的支援について検討し、利用者サービスの向上に努めた。

※ 平成30年度の行動制限・身体拘束同意者

共同生活援助事業所：7名、生活介護事業所：10名、
就労継続支援B型事業所：4名

※ 平成30年度の行動制限実施の解除者

共同生活援助事業所：3名、生活介護事業所：0名、
就労継続支援B型事業所：6名

※ 平成30年度の行動制限・身体拘束の実施報告の件数

共同生活援助事業所：1件

- ※ 利用者の行動は心理状況・支援の方法で大きく変化し、その衝動的な行動に対して安易な身体拘束は逆に悪影響を及ぼす。身体拘束が発生しないように委員会を中心に多職種で検討しながら、今後も改善への取り組みを行なっていきたい。

苦情解決委員会事業報告

【 委員会の体制 】

各事業所及びホームを利用される方の人権を守り、提供するサービス内容での苦情等に適切に対応解決できるように努めた。活動内容としては、意見箱の設置と直接的な苦情の受付・対応を行い、定期的に第三者委員会を開催して、利用者の方の立場に立った苦情解決の制度を整備し実行した。

【 活動内容 】

意見箱の設置 苦情箱を設置して、いつでも苦情・要望・意見等を記入し投函できる様にし、問題解決に努めた。また各事業所及び各ホームからの苦情・要望・意見等の受付も行った。

アンケート 年1回実施した。(対象者：全職員)
アンケート内容
①障がい者虐待防止アンケートについて

意見箱での意見集約 意見箱で投函された意見を集約し、各担当とも連携をとり、問題解決に努めた。

保護者からの苦情受付 利用者の方の人権やプライバシーに配慮し、人権擁護(苦情解決)委員会のスタッフが中心となり解決を図った。
(今年度は保護者からの苦情はなかった。)

第三者委員会の実施 年3回実施した。(7月・11月・3月)

行動制限実施同意書の作成と実施 全体で15名であった。

行動制限解除同意書の作成と実施 全体で6名であった。

【 その他 】

人権擁護(苦情解決)委員会の構成は、苦情解決責任者を施設長とし、以下のスタッフが苦情受付担当者として中心的に活動した。

- (相談支援専門員) 樹本 有太
- (生活支援員) 野尻 由美
- (職業指導員) 長嶋 理江
- (生活支援員) 霍本 敬俊

虐待防止委員会事業報告

【委員会の体制】

各事業所及びホームを利用される方の尊厳と主体性を尊重し、職員一人ひとりが虐待防止に向けた意識をもち、虐待防止の重要性を再確認し具体的な防止策の実践を着実に進める。また、虐待防止委員会を中心に障がい者の虐待防止に関する取り組みをさらに推進すべく、虐待防止に向けた措置及び啓発を積極的に行なった。

【活動内容】

※会議の実施

- 7月… 障害者福祉施設等における障害者虐待防止と対応の防止と対応の手引き
 についての説明・周知
 虐待事例の検討
- 11月… 虐待事例の検討
- 2月… 障害者虐待事案に係る改善依頼の報告・説明
- 3月… 虐待事例の検討

虐待防止に関する研修会の参加

年3回の園内研修の中で、虐待防止に関する研修が行なわれ、全職員が参加する。

虐待発生時には虐待防止対応規定に基づいた対応

虐待発生時に虐待防止対応規定に基づき、委員会を開催し対応を行なった。

虐待防止を図るための啓発

虐待防止委員会開催後、各事業所に回覧を回し啓発を行なった。

※職員一人ひとりが虐待防止に向けた意識を持ち、虐待が発生しないように委員会を中心に多職種で検討しながら、今後も改善への取り組みを行なっていきたい。

給食課 事業報告

(食事・栄養面の支援)

慢性疾患の既往歴者・高齢者が多くなり、重ねて嗜好飲料・菓子類等の間食の多食によって生活習慣病の予備軍・罹患者が急増する中で、健康の維持や増進を目標に支援を行った。

具体的には、体重が顕著に増加している利用者には個別で話をおこない、個人に応じた目標を設定し、適時支援をおこない目標達成に向けて、本人のモチベーションを維持できるように配慮した。

また、高齢利用者に対しては、摂食状況を確認し誤嚥や嚥下のリスクを下げるため、本人にあった食事形態の提供に心がけた。

(喜ばれる献立の提供)

食の楽しみの一環としてのサプライズ献立では、日常食では提供が難しい献立ではあるが、利用者に喜んで頂けるように厨房職員と連携し献立作成から効率的な調理工程・盛り付け等の計画を行い、レベルの高い献立を提供することができた。また次の献立計画に反映するため繰り返し評価を行った。

リクエスト食では、誕生者の希望メニューを取り入れ、世話人とともに調理し、ホームの利用者でお祝いできる環境づくりを行った。

給食年間行事実施報告

4月	サプライズ献立・リクエスト食・花見	10月	サプライズ献立・リクエスト食
5月	サプライズ献立・リクエスト食	11月	サプライズ献立・リクエスト食
6月	サプライズ献立・リクエスト食	12月	サプライズ献立・リクエスト食・クリスマス献立
7月	サプライズ献立・リクエスト食・七夕献立	1月	サプライズ献立・リクエスト食・正月料理・鏡開き・七草がゆ
8月	サプライズ献立・リクエスト食・お盆料理	2月	サプライズ献立・リクエスト食・節分献立・バレンタイン料理
9月	サプライズ献立・リクエスト食	3月	リクエスト食・雛祭り献立

相談支援センター事業報告

当事業所は平成18年に地域生活支援事業の中の障害者相談支援事業の委託を受けて、平成24年に指定特定・障害児相談支援事業、平成25年に指定一般相談支援事業の指定を受け、美里町を中心に宇城圏域の知的・身体・精神・発達障がい・障がい児・難病等の方々が、安心して日常生活や社会生活が送れるように事業を実施してきました。また、障がい者や家族等からの相談を受けて地域の障がい者福祉の諸問題につき必要な情報提供や助言、福祉サービス利用等の支援を行うと伴に関係機関や福祉サービス提供事業所との調整や権利擁護に必要な支援を勧め、依頼を受けて福祉サービス利用等に伴う計画相談を実施しました。

	身体 障害	重症 心身	知的 障害	精神 障害	発達 障害	高次脳 機能	その他	計
相談支援利用件数	15	3	105	27	9	0	1	159
計画相談件数	サービス利用計画：117				モニタリング：229			
認定調査件数	27							

相談支援内容

委託相談支援の実施では福祉サービス利用に関する支援が多く、行政やサービス提供事業所との連絡調整や訪問を行いサービス利用状況の把握を行なった。次に不安の解消や健康・医療に関する支援が多く、医療の手続き、通院や入院の繋がり、人間関係など関係期間や精神科病院との連携を通じて専門的な支援を実施した。家計・経済に関する支援も多く就労関係機関との連携を進め、年金取得の為の支援も行なった。また、障害児の療育関係の相談では支援学校、各機関と連絡調整し福祉サービス利用に繋がっている。圏域では障がい者支援協議会のもと相談事業所、行政が参加しての部会を定期開催し相談支援に関する問題点や包括的な話し合いを行った。

- 「障がい者相談会」や障がい者支援の「定例会」に参加しケース検討や情報交換等を通じて障がい者支援のネットワーク体制作りを進めた。又、障がい者の食事づくりサロン「よんなっせ」の開催を通じて在宅の障がい者の余暇利用の支援を行った。
- 保育・教育・進路面での相談に応じ情報提供を行ない、小中学校特別支援学級担当者会議の参加や宇城巡回療育事業との連携を行った。
- 身体障がい者の集まりや、精神障がい者の方の集まりにも参加してニーズの掘り起こし、ひきこもり対策、行事参加など関係機関と協力しながら進めた。
- 障害者手帳や障害基礎年金取得、各種手続きの支援を通じて生活基盤を確立し、日常生活や社会生活で生きがいをもって暮らしが営める様に支援を行った。
- サービス利用支援では難病の方も加わり、居宅介護やA型事業所のサービス利用に繋がり、サービス提供事業所と共に難病特性の把握に努めている。

生活介護センター事業報告

質の高い生活及び自らの意思が反映された生活を送ることができるよう様々なサービスの提供や配慮、取り組みを行なった。特に意思反映を目標に、可能な限り自ら意思決定ができるよう支援を行なうと共に併せて従来の日常生活動作の確立のための支援及び創作的活動やレクリエーション・生産活動・野外活動（外出）等の機会を提供し、利用者の自立支援及び意欲向上のための取り組みを行なった。提供したサービスについては評価・修正・反映を定期的に行なうことでサービスの質の向上と徹底に努めた。

＜利用状況＞ 定員：31名

H30.4月～H31.3月	男性 17名	女性 17名	計 34名
---------------	--------	--------	-------

＜生産活動＞

* フルーツキャップ・割り箸袋入れ・シール貼り、梱包（事業収入から経費を差し引いた額を工賃として全員に同額支給）

平成30年度一人当たり工賃 21,512円

＜創作的活動＞

* 季節飾り作製・小物、アクセサリー作製・折り紙・塗り絵・スケッチ等

＜軽運動＞

* ラジオ体操・ストレッチ・事業所周辺のウォーキング・リズム体操等

＜レクリエーション＞

* カラオケ・各種ゲーム・DVD観賞等

＜その他＞

* 音楽・学習・生活

＜野外活動及び行事＞

4月	花見（宇土市：立岡自然公園）	10月	外出（御船町）
5月		11月	紅葉狩り（五木村）・ゆきぞの音楽祭
6月	外出（高森町）	12月	もちつき・忘年会（熊本市） クリスマス会・福祉大会
7月	外出（御船町）	1月	初詣・成人祝い
8月	夏祭り	2月	外出（御船町）
9月	外出（阿蘇：大観峰・ミルク牧場）	3月	外出（熊本市動植物園）

＜健康管理＞

・利用者が高齢化し複数疾患をかかえている人が増えてきている。今後も疾病と疾病悪化の予防に心掛け、体力の維持・向上について支援を行なっていく。

・利用者の中には不調を訴えることができない方もいるため、自覚症状の訴え以外にもいつもと違う状態や不調に気づいた時-には、何らかの病気の可能性を考え対応を行なった。

* 1日1回のバイタル測定（体温・血圧）と月1回の体重測定の実施。

* 利用者の状況の変化に応じた協力医療機関への受診。

* 1月～3月：希釈した次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ消毒や手洗い後の手指消毒の実施。

【平成30年度通院状況】

精神科	内科	皮膚科	泌尿器科	乳腺科	眼科	眼科	耳鼻科
13名	12名	10名	4名	4名	3名	4名	1名

ワークセンターゆきぞの事業報告

就労継続支援 B 型事業は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための、法律等の関係法令の理念に則り、利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活営むことができるよう、事業者が個別支援計画に基づき利用者に対して必要なサービスを適切に行うことを定める。

【利用者定員】 40 名

【営業日と営業時間】

営業日：月曜日～金曜日（国民の休日及び8月の3日間・12月29日～1月3日を除く）

営業時間：9：00～16：00まで（土曜・祝日等の一部営業の場合は、希望とする）

【利用者利用状況】

月	人数	日数	月人数	月	人数	日数	月人数	月	人数	日数	月人数
4月	46人	21日	911人	8月	44人	21日	876人	12月	44人	20日	831人
5月	46人	22日	942人	9月	45人	19日	809人	1月	44人	20日	819人
6月	45人	22日	947人	10月	44人	23日	965人	2月	44人	20日	817人
7月	45人	22日	925人	11月	44人	22日	927人	3月	44人	21日	865人

年間営業日：253日 年間利用人数：10,634人

【生産活動種目】

タオル班：タオルポリ入れ・10枚とじ・タオル端縫い（手動ミシン、自動ミシン）
お茶箱加工

【生産活動目標額】

工賃月平均額目標：25,000円（一人あたり）

【生産活動支給額】

月工賃平均支給額：21,011円（一人あたり）

【年間行事】

11月・・・ゆきぞの音楽祭（土曜日午前中作業、午後より参加）

12月・・・餅つき会（午前中作業、午後より土喰グループホーム駐車場で実施）

忘年会（土曜日午前中作業、午後岩本本店で実施）

※ 毎月1回土曜日営業をし、14：30まで作業、その後外出して買物等の実施をする。
また、年2回は午前のみ作業をし、その後外出して外食を実施する。

グループホームゆきぞの 事業報告

利用者、家族のニーズをより正確に把握し対応していくことを目標に取り組んだ。利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に身体及び精神の状況並びに、その置かれている環境に応じて共同生活住居において、入浴、排泄及び食事等の介護、相談その他の日常生活上の支援を行った。

(利用状況) 定員：60名

平成30年3月現在 もくせい(栗崎) 男性 14名
 おおくす(原町) 男性 4名 女性 4名
 さくら・にれ(土喰) 男性 15名 女性 21名 (計58名)

(入退居状況) (入居者) 男性 2名 (退居者) 男性 3名

(入居者年代別) 平均年齢 53.1歳

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
4名	9名	8名	14名	18名	5名

(障害区分)

無及び1	2	3	4	5
5名	17名	15名	14名	7名

(社会的生活面)

自主性を尊重し、趣味活動・外出・うきうき行事等への参加のための支援を行った。

4月	うきうき楽しむ会総会 16名	10月	土喰・原町ホームバーベキュー(台風のため中止)
5月	家族会・春期休暇	11月	うきうき楽しむ会日帰り旅行(人吉) 6名
6月	うきうき楽しむ会2泊旅行(北海道) 5名	12月	家族会・冬期休暇
8月	家族会・夏期休暇		うきうき楽しむ会1泊旅行(福岡) 15名

(健康管理)

加齢に伴う基礎疾患の病状の変化や新たな生活習慣病の発症など、独りで複数の疾患をかかえている人など様々な健康問題が高まってきているが、利用者は自己の身体の細かな変化を表現したり不調を訴えることが難しいことから、疾病の発見が遅れたりするリスクが高い。また、病状や治療に対しての理解が得られず食生活等のコントロールが難しい面もある。今後も定期検診などを活用しながら、病気の早期発見と未病に努めていきたい。

(受診科状況)

精神科	内科	耳鼻科	皮膚科	整形外科	泌尿器科	胃腸科	眼科	歯科	その他
26名	29名	1名	31名	8名	5名	8名	5名	11名	5名

(入院状況)

精神科	外科
2名	1名